2006ITU世界選手権ローザンヌ大会
上田藍が12位に食い込む健闘

田山寛豪が粘って22位に入る

9月2日（土）、3日（日）、スイス・ローザンヌで2006ITU世界選手権が行われた。ローザンヌは国際オリンピック委員会（IOC）の本部があり、オリンピックシティとして知られている。その地で、2度目の世界選手権が開催された。

午前10時30分スタートのエリート女子は、ローラ・ベネット（アメリカ）がスイムから快調にとばし、トップを奪った。日本選手は、古谷あかね（トヨタ車体）が3番手でバイクへと移っていった。

バイクでは、スイム10番手と好位置の庭田清美（アシックス・ザバス）が、バイクのトップ集団で果敢にスピードを上げると、スイム51位と出遅れた観のあった上田藍（グリーンタワー・稲毛インター）が、忽那静香（日東紅茶・TEAM KEN ‘S・A&A）、古谷が後退するなか、うまく集団のスピードを上げて、3周回目にはトップ集団に追いついた。その結果、28名の大集団ができあがり、このままランへと移る展開となった。期待の庭田は、バイク終盤でリタイアとなった。

ランでは逃げる外国勢に上田が健闘し9位となった。優勝は、エマ・スノーシル（オーストラリア）が奪った。

午後1時のスタートとなった男子は、30秒の間に40名近くの選手がスイムを終える混戦の展開。そのなか田山寛豪（チームテイケイ）が18番手のまずまずの位置でバイクへ移った。

バイクでは、2周回目で50名近い集団にふくれあがったが、最後2周回を残して8名がエスケープを決めた。田山はこれに乗れず、勝機を逸した格好。

ランでは、前をゆく選手たちを着実に追う田山が、22位を確保した。優勝は、ランラップ1位の快走を見せたティム・ドン（イギリス）が1位になった。

なお、前日行われたエイジグループ選手権で、福元哲郎（広島県協会）が30-34のカテゴリーに出場。ランラップ2位の走りで、日本選手初の5位を獲得した。

スイスアルプスをバックにレマン湖でのスイム

課題の一つをクリアしたという上田

「10位以内を目標にしていたので、課題はまだ残っています。スイムで、あまりよくなかったのですが、バイクで早い段階で第1集団に追いつけたのがよかったです。バイクからランへの飛び出しを、課題の一つにしていたので、ランの走りだしで負けなかったのは、嬉しいことでした。外国人選手のランの速さに、あと2年で追いつけるように頑張ります」といいながらも、この夏に行った長野での高地トレーニングの成果に手応えを感じているようだった。来週のITUワールドカップ・ハンブルク大会にも期待したい。

NTT東日本 NTT西日本 Kyorin JAL arena weider asics Kodak AIU TAIHEI CASIO resoritrust JCB LEOPALACE RESORT 日刊スポーツ Gakken 文化総合研究所

社団法人日本トライアスロン連合 東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F
TEL：03-5469-5401（代） FAX：03-5469-5403 Email：jtuoffice@jtu.or.jp URL：http://www.jtu.or.jp/

2006 ITU世界選手権ローザンヌ大会
上田藍が12位に食い込む健闘

U23では、田中敬子が9位と活躍

同日午前と午後に分かれて行われたU23では、8月のアジア選手権U23で優勝した田中敬子（NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58）が、スイムからバイクへと好位置で戦い、バイクからランへのトランジションで前へ出て、そのままスピードに乗った走りを続け、9位に入った。優勝は、エリン・デンシャム（オーストラリア）。男子の優勝は、ウィリアム・クラーク（イギリス）だった。

なお、レースの模様はフォトギャラリーでご覧いただけます。

ティム・ドンとハミッシュ・カーターの激走

バイクを変えた田山

「とりあえず自分の味を出そうとしました。バイクを、アジア選手権から27インチにしたので、バイクを乗りこなす身体作りをしています。バイク中盤で8人が逃げたのに、つけなかったのが課題です。アテネでも同じように逃げられたので、ここに入れるかが、メダルをとれるかとれないかの境目でしょう」と田山はコメントした。慣性力のより強い27インチのバイクは、「とてもすばらしい」そうで、それを乗りこなして自分のカラーを変えたいということなのだろう。アテネでもつけなかったハミッシュ・カーター（オーストラリア）において行かれたのが悔しそうだった。

次回のレースは、ITUワールドカップ北京大会。

世界の壁の高さを感じた田中

「バイクが勝負となったレースでした。登りがきつくて、やっとついて行っていた感じです。ランの走り出しがよかったので、バイクでもう少し足を残せれば、もっとランで走れたと思います。でも、いまの力は全部出したので、悔いはありません。ただU23とはいえ、世界の壁はまだまだ高いと感じました。第1集団の選手は、みんなワールドカップを転戦している人でした」と、9位にも謙虚な答えをした田中。今年の後半は、経験を積むためにワールドカップを何レースが行きたいと希望している田中の次回のレースは、1週間後のITUワールドカップ・ハンブルク大会ということだ。

NTT東日本 NTT西日本 Kyorin JAL arena weider asics Kodak AIU TAIHEI CASIO resorttrust JCB LEOPALACE RESORT 日刊スポーツ Gakken 文化総合研究所

社団法人日本トライアスロン連合 東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F
TEL：03-5469-5401（代） FAX：03-5469-5403 Email：jtuoffice@jtu.or.jp URL：http://www.jtu.or.jp/